

APHS PENANG 2023 学会参加報告書

藤沢湘南台病院 福田敏之

この度、APHS Scholarship 2023 に選抜をしていただき、誠にありがとうございます。私は現在医師 5 年目の専攻医であり、今回海外の学会に参加するのは初めてでした。コロナによる影響でしばらく現地開催がなく、この度マレーシアでの久々の現地開催となり、また Scholarship という有難い制度もあることを知りまして、是非参加してみようと思いました。

マレーシア、ペナンについては今回の学会に参加するまではほとんど無知の状態でした。マレーシアの人口の約 60%は中華系で占めており、また古くからインド会社の支配下にあった経緯などから、イギリスの植民地時代の文化も数多く残っているようで様々な文化の入り混じる場所でした。実際に訪れるとマレーシア系は勿論、中華、インドや西洋など様々な文化の建築や食べ物に触れることができ、ペナンは大変活気に溢れた街でした。



学会会場は SPICE Convention Centre という立派な建物であり、20 以上の国々から総勢 800 人の参加者が集まっておりました。インドや中国人の割合が多いような印象は受けましたが、様々な国の参加者が、TAPP が良いか TEP が良いかを真剣に議論しているのが印象的でした。ロボットや腹壁癒痕ヘルニアに対する eTEP のセッションも多く、貴重な手術動画を拝見することができ、大変勉強になりました。

私自身は大腿ヘルニア嵌頓の手術症例を検討したポスター発表でした。デジタルポスターのスペースがやや分かりづらく、また見たいポスターを自分で検索するシステムでした。特にディスカッションの機会はなく、次回からは口頭発表に挑戦したいと思いました。

また今回は同病院の上級医と二人で参加させていただいたのですが、学会主催の Gala dinner に参加した際に今村先生をはじめ多くの日本の先生方が気さくに声をかけてくださりました。同年代の先生も多く、大変良い刺激をいただきました。会場では音楽に乗りながら全体で輪を作るようなイベントもあり、大変温かい、楽しい雰囲気でも包まれておりました。

今回の学会に参加してヘルニア診療に対する興味が増し、また海外での学会に参加する意義を学びました。これからも積極的に参加していきたいと思います。このような機会をくださった日本ヘルニア学会に改めて感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

